

# 農産品物流対策関係省庁連絡会議の設置について

平成28年11月29日  
関係省庁申し合わせ

## 第1 趣旨

農林水産業・地域の活力創造プラン（平成28年11月29日農林水産業・地域の活力創造本部決定）に基づき、農業者の所得向上に資する流通・加工構造の確立に向けた取組の一環として、農産品物流の効率化によるコスト削減等の取組を政府一体となって推進する必要がある。

このため、「農産品物流対策関係省庁連絡会議」を設置し、農産品物流の課題や実現すべき姿に係る認識を共有するとともに、関係者が取り組むべき方策等を総合的に検討し、連携して効果的な対策を実行する。

## 第2 構成

連絡会議の議長は、農林水産省食料産業局長とし、関係省庁の局長等で構成する。ただし、議長は、必要があると認めるときは構成員を追加し、または関係者に出席を求めることができる。

## 第3 主な検討内容等

農産品物流の現状、課題及び実現すべき姿の認識を共有するとともに、農産品物流を改善し、農業者の所得向上等に資する以下の方策等について、関係省庁で調査・検討し、とりまとめを行う。

- 1 物流効率化等の測定指標及び国内外の農産品物流の現状
- 2 パレットや折り畳みコンテナによる出荷・運搬
- 3 ICTを活用した共同配送等
- 4 他業種との物流の共同利用
- 5 トラック輸送から鉄道・船舶輸送に切り替えるモーダルシフト
- 6 多頻度小ロット配送や短いリードタイムでの納品等の商慣行の改善 等

## 第4 運営

- 1 連絡会議に幹事を置く。幹事は、関係行政機関の職員で議長の指定した官職にある者とする。
- 2 連絡会議は非公開とする。なお、連絡会議の配布資料及び議事概要については、構成員の了解を得た後、農林水産省のホームページにより公表する。
- 3 連絡会議の事務局は、関係省庁の協力を得て、農林水産省食料産業局食品流通課が行う。

（参考）スケジュール案

- ・12月 : 第1回 連絡会議（立ち上げ等）
- ・1～2月 : 数回開催
- ・3月 : 中間とりまとめ

## 農産品物流対策関係省庁連絡会議構成員

(議長)

農林水産省 食料産業局長

(構成員)

農林水産省 生産局長

農林水産省 経営局長

農林水産省 政策統括官

経済産業省 商務流通保安審議官

国土交通省 物流審議官

国土交通省 自動車局長

## 農林水産業・地域の活力創造プラン（平成28年11月） 抜 粋

### V 具体的施策

#### 6. 更なる農業の競争力強化のための改革

- ① 生産者が有利な条件で安定取引を行うことができる流通・加工の業界構造の確立
  - ・ 農業者が、各種流通ルートについて、手数料や取引条件等を比較して選択できる環境を整備。また、農産物の物流について、パレット化やICTを活用した共同配送等の効率化によるコスト削減の取引を推進

## 農業競争力強化プログラム（平成28年11月） 抜 粋

### 2 生産者が有利な条件で安定取引を行うことができる流通・加工の業界構造の確立

#### (1) 生産者に有利な流通・加工構造の確立

現在の食料需給・消費の実態等を踏まえた効率的・機能的で農業者と消費者双方がメリットを受けられる流通・加工構造を確立するため、以下のとおり取り組む。

その際、農林水産省、経済産業省をはじめ政府一体となって取り組む。

- ⑦ 国は、民間のノウハウを活用して、農業者が各種流通ルートについて、手数料や取引条件等を比較して選択できる環境を整備する。

また、農産物の物流については、パレット化やICTを活用した共同配送等の効率化によりコストを削減する等の取組を推進する。

- ⑨ 上記改革を推進するため、農産物の流通・加工に関し、国の責務、業界再編に向けた推進手法等を明記した法整備を進める。

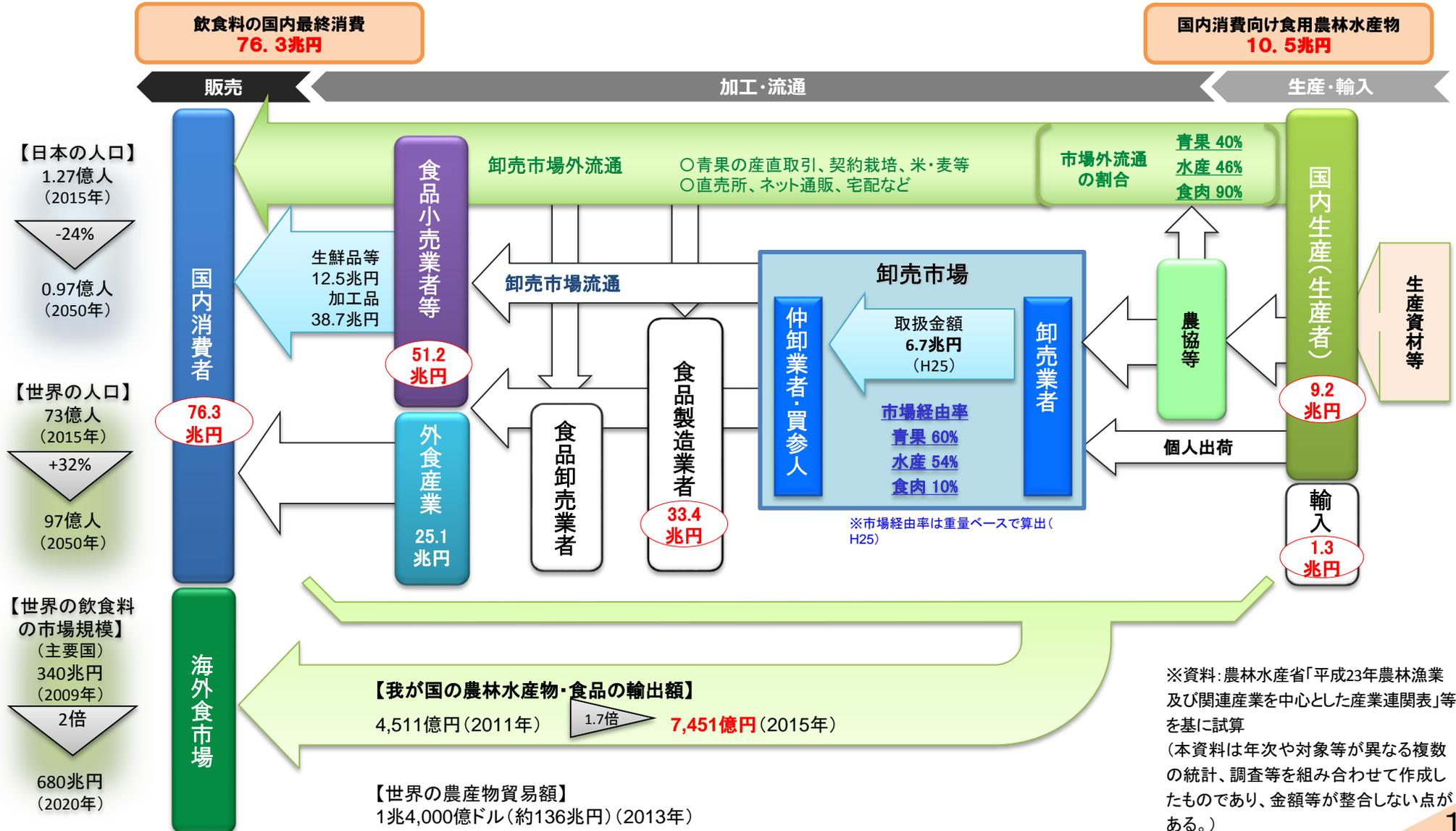
# 農産品物流の現状

平成28年12月

農林水産省  
食料産業局

# 農林水産物・食品の流通構造

○ 農林水産物・食品の流通・加工構造を、現在の食料需給や消費の実態に合わせていくことが課題。



# 我が国の農産品の流通構造

- 現在の農産品の流通構造は、多種多様で腐敗しやすい等の農産品の特性や、小規模で天候に左右される等の生産構造、気温に左右され、多様化・細分化した消費構造などにきめ細かに適応していく形態として発展。
- 近年、食料需給や消費の実態等がさらに変化中、流通構造の変化にあわせて物流を考える必要。

## ■農産品の特性や生産、消費の構造に対応した流通構造

農産品の特性	生産構造	消費構造
◆ 腐敗しやすく保存できない品目が多い	◆ 生産量や出荷量が天候や気象条件により変動	◆ 少量を多頻度で購入
◆ 軟弱で潰れたり傷つきやすい品目が多い	◆ 約130万の農業経営体	◆ 気温や流行等で消費量が変動
◆ 多種多様な品種が存在	◆ 農業者の平均年齢67歳	◆ 鮮度、味を重視
◆ 味や形状等の品質が均一になりにくい	◆ 生産現場へのIT導入の遅れ	◆ 見た目も判断材料
◆ 容積と重量の関係(比重)は様々	◆ 出荷規格が多種多様	◆ 品揃で購入先を選択
◆ 冷蔵等の多温度帯の輸送が必要な場合も	◆ 大消費地まで長距離輸送を要する産地も存在	◆ ニーズが多様化・細分化(品種、品目、サイズ、容量、加工度合い等)
	◆ 葉物等は年間通じて出荷、穀類等は1年1作で保管し順次出荷	◆ 消費の二極化、根強い低価格志向

流通構造
◆ 多段階流通で関係事業者数が多く、競争が激しい(農協:約2640、卸:約1300社、仲卸:約6200社、加工卸:約2.3万社、小売:約23.4万社)
◆ 全国の様々な産地から、多種多様な品目を迅速に集分荷し、鮮度を確保する必要
◆ 多頻度・小ロット、短納期で小売へ配送し、鮮度・品揃えを確保する必要
◆ 直売所、ネット販売等の直接販売形態が近年発達
◆ 保存できる品目は卸売市場経由が少なく、専門卸等が小売等へ流通
◆ サプライチェーンが長距離

# 農産品等の物流の状況

- トラック等の実車時の積載率は6割程度。他方、地域によっては農産品の物流において需給のミスマッチが生じている、また、トラックドライバー不足等によるコスト増加の指摘もある。
- 共同配送やIT活用等による物流の効率化により、農産品流通におけるコスト削減等を行い得るのではないか。

## 農産物の物流に係る現場や関係者の意見等

- 他社の荷物の混載や、市場や顧客のトラックを共同利用するなどして、物流コストの削減や、人材不足に対応するなど、他業者とも協議していきたい。(JA青年組織員)
- 地方では物流費が高い。小ロットなので宅配では送料の方が商品より高くなる場合も。共同で動かせる物流ネットワークができれば動きの幅が広がるのでは。(農業女子プロジェクト参加者)
- トラック業界は異変が起きている。運転手が全く不足し、輸送関係が大変な問題に。出荷先と検討しているが、パレット輸送かコンテナ輸送が出来ないか模索しているところ。(JA組合長)

## トラック等の実車時の積載率

項目	日本	英国	ドイツ	デンマーク
実車時の積載率	59% (2014年)	約60% (2007年)	約60% (2007年)	約40% (2008年)

(参考) 品目別の貨物輸送量 (H26、営業用トラック等)

品目	輸送トン (千トン)	割合
穀物	28,124	1.0%
野菜・果物	44,314	1.5%
その他農産品	15,536	0.5%
畜産品	31,931	1.1%
水産品	28,333	1.0%
食料工業品	328,815	11.2%
木材	82,048	2.8%
砂利・砂・石材	225,028	7.7%
金属	163,595	5.6%
機械	212,368	7.2%
石油製品	157,699	5.4%
日用品	211,520	7.2%
動植物性飼・肥料	42,378	1.4%
取り合せ品	456,663	15.6%
その他	906,010	30.9%
計	2,934,361	100.0%

食品関連  
約16%

食品関連以外  
約84%

【出典、資料等】  
 ➢ 自動車輸送統計調査票より国土交通省にて算出  
 ➢ 輸送トン数は、貨物自動車輸送した貨物の重量をトンで表した数である。  
 ➢ 食料工業品は、製造食品、飲料、その他の食料工業品(調味料類、でんぷん類、酵母、動物性製造食品、飲料水、たばこ等)

【出典、資料】  
 ➢ 日本:自動車輸送統計調査票より国土交通省にて試算  
 ➢ 英国、ドイツ、デンマーク: Load factors for freight transport (European Environment Agency, 2010)

# 我が国の農産品物流の課題

- 高齢化、ドライバー不足等によりトラック業界の厳しさが増す中、輸送条件の厳しい農産品は、運賃の上昇やトラックの確保自体が困難となる可能性があり、生産者の所得低下による生産量の減少、ひいては流通業者の集荷や販売の確保が困難となるなど、深刻な影響を及ぼすおそれ。
- このため、農産品物流の効率化等による輸送条件の改善や物流コストの削減が必要だが、物流の問題は出荷から小売までのサプライチェーン全体に渡り相互に関連しているため、生産段階等の個別の取組ではなく、流通の各段階が連携した取組が必要。

## ■農産品の物流に係る各段階ごとの課題(主に青果物)

課題	生産・出荷段階	卸売段階	小売段階
時間	◆出荷量、出荷先の決定が遅く、 出発時刻が変動	◆入荷時間の集中、順番待ちの拘束 ◆荷揃いが遅く、出発時刻が遅延	◆納品時間の厳格な要求 ◆入荷時間の集中、順番待ちの拘束 ◆多頻度小ロット配送の要求
量	◆出荷量の変動(可載量とのミスマッチ) ◆小ロット(トラック確保困難)	◆入荷量、配送量の変動 ◆帰り荷がない	◆多頻度小ロット配送の要求 ◆帰り荷がない
資材	◆ダンボール出荷、パレット不使用	◆オリコン、パレットの紛失	◆オリコン、パレットの紛失、 ダンボール廃棄負担
付帯作業	◆手積み負担大	◆手降ろし、手積み負担大	◆手降ろし負担大
輸送	◆出荷先が変動	◆他市場への転送	
その他	◆直販等の宅配便利用は送料が割高 ◆細分化した出荷規格への選別・調整	◆遠隔地からの長距離輸送	